# 7.2 擬似言語の基本パターシの使い方

前節では、基本情報技術者試験に出題された擬似言語の記述形式を例にとり、基本事項を説明してきました。

この節では、擬似言語での記述内容や構成を考えていくことにします。

### 例題7-1 —

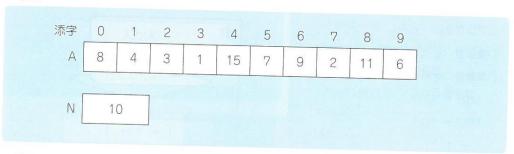
配列 A にあらかじめ格納してある数値データの中から、その範囲(レンジ)を求めて変数 RN に格納するアルゴリズムについて,空欄をうめよ。ここで,範囲(レンジ)とは、最大値から最小値を引いたものを示す。

なお、配列 A に格納されているデータ数は、N に格納されている。また、繰返 しの処理は、回数が最小となるように考慮し、配列の添字は 0 から始まる。

## 考え方

手順 1. 添字を 0 から始めて、最後の要素まで操作し、最大値、最小値を求めます。 手順 2. 求めた最大値から最小値を引いて、範囲を求めて出力します。

#### 〈例〉



注記 変数及び配列 A の格納データは、あらかじめ定義されているものとする。

### 〈擬似言語〉

